

中野区の木の「しいの木」そして、図書を表す「biblio」  
それらをあわせてタイトルを「シイビブリア」としました

中野区立図書館報

# シイビブリア

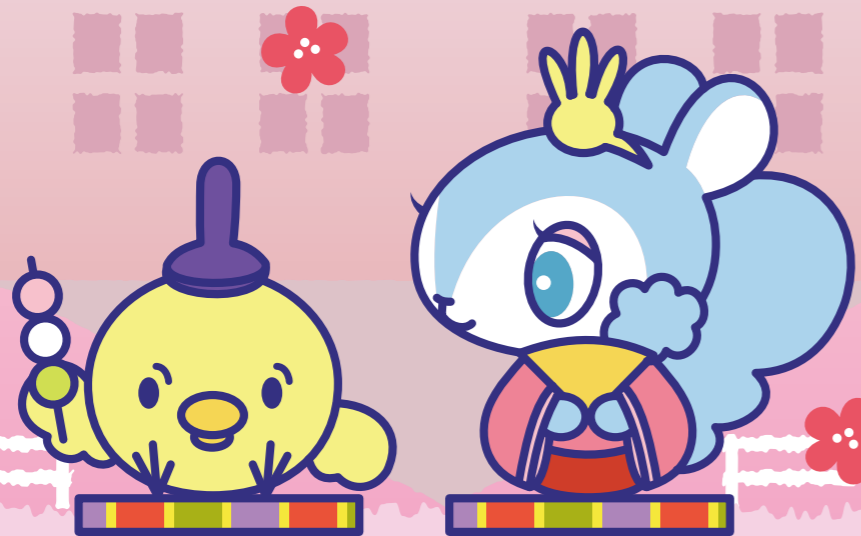
vol.  
58

## お雛様のルーツ

## もっと！日本と人形

鷺宮図書館

## 鷺宮のいま・むかし



中野区立図書館報  
シイビブリア

シイビブリア  
中野区立中央図書館報 vol.58

令和5年2月28日発行(季刊)  
発行人 鈴木正実

〒164-0001 東京都中野区中野二丁目9番7号  
発行 中野区立中央図書館シイビブリア編集部

ISSN 2187-9893 seebiblia



中野区立図書館

<https://library.city.tokyo-nakano.lg.jp/>

指定管理者

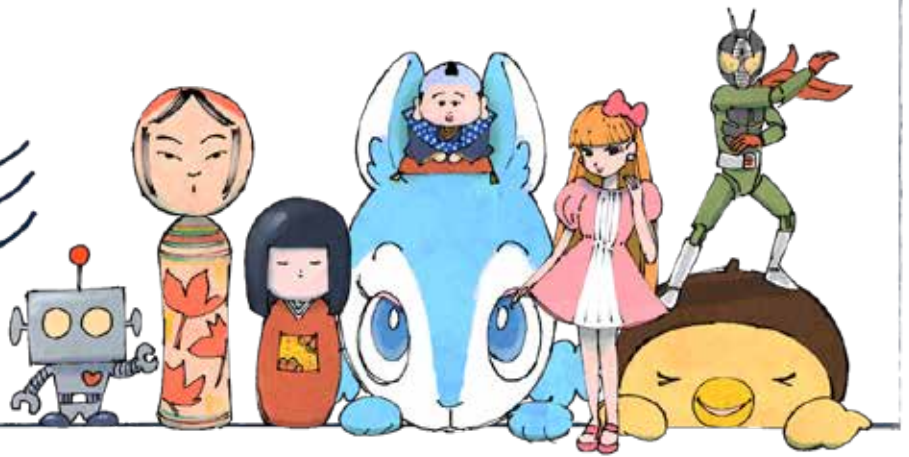
ヴァイアックス・紀伊國屋書店 共同事業体

seebiblia

もっと!

# 日本と人形

ひな人形、五月人形、ロボットや着せ替え人形、最近ではカプセルトイやフィギュアまで。人形は、誰もが一度は触れあったことがあるおもちゃではないだろうか。今回の特集では日本と人形の関係について読み深められる書籍を紹介する。



桐竹勲十郎 / 著、小学館、2014年、所蔵：中央・中野東

## 『文楽へようこそ』

淡交社から刊行されている雑誌『なごみ』に、2007年1月〜2008年6月まで連載されていた文章を、まとめて一冊にしたのが本書だ。全18回の連載で、日本の人形の歴史と文化を紐解いていく。掲載されている人形たちは、土偶から美少女フィギュア、からくり人形や指人形まで様々。思わずドキリとするような妖しい雰囲気を持つ人形たちが、写真付きで紹介され、作り手たちの個性が光るインタビューも読み応えがある。



佐々木幹郎 / 著、淡交社、2009年、所蔵：中央

## 『人形記』



江戸時代に大阪で生まれた人形芝居「文楽」。そんな文楽に親しみを感じ、楽しむために作られたガイドブック。文楽界で活躍する著者の二人が選ぶ「私が好きな演目ベスト10」では、有名な演目が写真つきで解説されており、読めば鑑賞してみたくなると間違いない。他にも対談、文楽ゆかりのスポット紹介、楽屋裏を描いた漫画まで収録されている。文楽を知り尽くしている人も、これから文楽を鑑賞しようとする人も、どちらも楽しめる内容になっている。

## 『はじめましての郷土玩具』

郷土玩具



甲斐みのり / 著、中村浩訳 / 監修、グラフィック社、2015年、所蔵：中央

本書は、日本各地で愛されている郷土玩具にスポットを当てて紹介している。書名に「はじめまして」とあるように、大きさや玩具の由来な

どをカラー写真と共に見ることができる。全ての郷土玩具に作り手の愛情や願いがこめられており、ページをめくって眺めていると、なんだか手元に置きたくなってしまふ。人形以外の郷土玩具も沢山紹介されており、その素朴さや愛らしさに読んでいっただけで心が温まる。

## 『こけし図譜』



佐々木一澄 / 絵と文、誠文堂新光社、2020年、所蔵：中央・中野東

東北6県で主に作られる、轆轤で挽かれた木の人形「こけし」。作る職人によって表情が変わるこけしの魅力を、文化・風土・意匠・工人、すべての面から一冊で学ぶことができる。こけしに対する深い愛情を感じることで、できる優しいイラストがページに華を添えている。起源や歴史も含め、この本一冊でこけしの魅力をたっぷり味わうことができる。





# お雛様のルーツ

## THE ORIGIN OF HINA DOLLS

3月3日は桃の節供。桃の節供後は、雛人形はすぐ片付けるものとされてきた。なぜだろう？  
節供人形は節供が終われば片付けるべきものだから、というのがメインの理由だが、長く飾っておくと湿気や日光で人形が傷むから、という実際的な理由もある。さらには雛人形は本来、持主の禍いを肩代りする「ひとがた」であり、厄災を移し負わせたまま放っておくと、禍いが本人に戻ってしまうから、という説もある。  
この「ひとがた」とは何か？ 雛人形のルーツを探ってみよう。



図1 御殿飾りの内裏雛と三人官女（中野区立歴史民俗資料館所蔵）  
京都を中心とした西日本では、雛段の最上段に紫宸殿（内裏の正殿）を模した御殿を置く、御殿飾りが普及した。制作：1952年

### 1 ひとがた

ひとがた（人形）（図2A）は、形代という呪物のうち、人間に対する呪術に用いられるもので、人をかたどっている（人形代）。

古代の日本では、病気や不幸の原因は穢れが乗り移った為だとされていた。穢れを清める呪法の一つとして、襖や祓が行われた。祓った穢れは次のように、ひとがたに移して祓い捨てた。①ひとがたに自分の名前や数え年などを書き、身体を撫でる。身体に悪い部分があれば、そこを念入りに撫でる。②それに息を吹きかけて魂を移す。これで、ひとがたが自分の身代り（形代）になり、心身の病いや禍い、罪の穢れが転移される。③②のひとがたを川や海に流す、燃やす、地中に埋めるなどして祓い捨てる。

以上はひとがたを善用する白呪術的用法だが、黒呪術的用法もある。人の分身であるひとがたを傷つけ、間接的に本人へダメージを与えるのだ。よく知られているのが丑の刻参りの藁人形だろう。古くは奈良の平城京址から、目や胸に木釘を打ち込まれた板のひとがたが出土している。ひとがたは古くは紙・木・藁・金属・

### 2 天児と這子

近代までは医療水準が低く、乳幼児や産婦の死亡率が非常に高かった。そのため子ども用の形代もあった。天児（図2B）と、這子（図2C）である。双方とも平安時代に、貴族の間で用いられ始めた。子どもの枕元に置き、その子に降りかかる病や厄災を移し負わせた。

**天児** 三十センチほどの竹を、丁字形に組み合わせて作った。竹を二本束ねて胴体にし、一本の竹を横にして両腕にする。天辺に白絹製の頭を乗せて顔と髪を描き、産着などを着せた。子どもに新しい着物を着せる時は、まず天児に着せていた。

**這子** 「祓い子」から来た名称で、這い這いする赤ん坊をかたどっている。白絹に綿を入れて縫い合わせ、頭部を差し込んで顔を描き、絹糸の黒髪を付けて金紙で束ねた。白絹の本体のままのものが多く、着物を着せる場合もある。感触が柔らかいので、おもちゃにもなった。江戸時

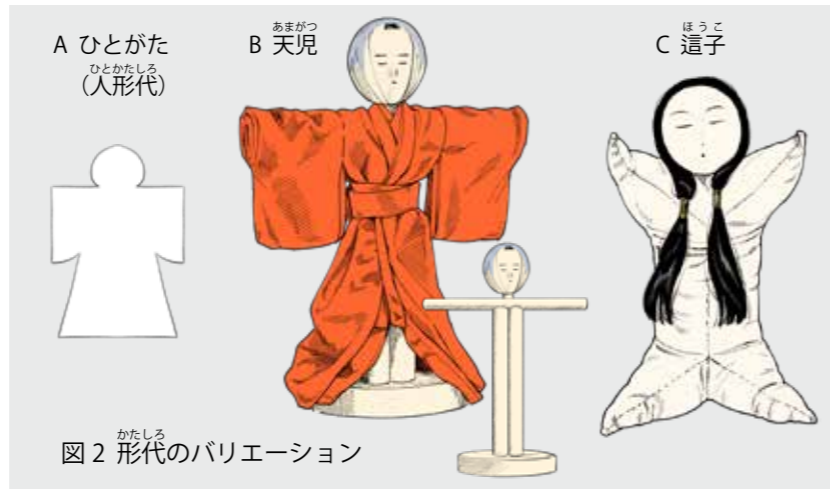


図2 形代のバリエーション

代には庶民にも普及し、女性のお守りともなった。婚礼調度に加えられる雛祭りにも飾られていた。

### 3 ひいな

古代にも呪物・お守りとしてのひとがたと別に、リカちゃん人形のようなおもちゃの人形もあった。「ひいな（雛）」である。貴族の少女がひいな遊びをする様子は、王朝文学にも描かれている。たとえば源氏物

語の『紅葉賀』では、十一歳の若紫が元旦からひいな遊びに熱中し、十を過ぎたらひいな遊びはせぬものですよ、と乳母にたしなめられている。ひいなの形や作り方についてはっきりとした記録はないが、女と男一対の立ち姿の紙人形を、手作りしていたようだ。これに紙や布の衣裳を着せていた。紙が貴重品だった当時としては、贅沢なおもちゃだった。

### 4 雛祭りとお雛人形

ひいな遊びから雛祭りへ 雛祭りはこうした貴族のままごとのひいな遊びと、神事の「上巳の祓い」が、長い歳月の間に融合したものとされている。上巳の祓いは、三月の上巳の日に水辺で陰陽師にお祓いをさせ、ひとがたを川や海に流す信仰行事で、流し雛の風習の基になった。三月上旬は三月最初の巳の日のことだ。「巳」は干支暦上の日にちである。干支暦では毎年日にちが変わるため、後に三月三日に定着した。

江戸時代に入ると三月三日は五節供の一つとして祝日になり、上巳の節供は武家の公式儀礼になった。次いで庶民にも広まり、女の子の誕生を祝い、健やかな成長と結婚・安産・家庭円満・長寿を願うお祭りになり、

「雛祭り」という言葉も生まれた。

ちなみに上巳以外の五節供は一月七日の人日、五月五日の端午、七月七日の七夕、九月九日の重陽である。節供はもともと季節の節目の節日に、その時季の供御（飲食物）を神に捧げ、それを下げて人々が共に食べる行事だった。今は「節句」という表記が多いが、元来は「節供」と書いた。なお節供や、ひとがた・天児・這子・上巳の祓い・干支暦は、いずれも中国伝来のものである。

**立雛から坐雛へ** 原初の雛人形は、紙で作られた紙雛だった。女男一対の立ち姿の立雛だ。そのフォームは現在でも紙の流し雛に受け継がれている。男雛の両袖を大きく広げた姿は、ひとがたや天児に似ている。十五世紀後半には、水に流す雛と室内に飾っておく雛が区別されるようになった。観賞用の雛人形はより精巧に、華美になっていく。紙の衣裳は布製になり、顔は立体的になった。胴体も立体化し、安定性のある坐った姿の坐雛が現れ、江戸時代には十二単や衣冠束帯姿の坐雛―衣裳着雛が主流になる。

雛人形を祭る場所も変わっていく。古くは床に敷いた緋毛氈や台の上に祭られていた。江戸時代になると五

士など様々な素材で作られていたが、現在は和紙製が多い。昨今はウェブ上でも神社のお祓いを受けられるが、それにはスマートフォンに表示したひとがたが用いられている。

人嚙子などの供回りの人形や雛道具の種類が増え、雛壇が設けられるようになる。その段数も次第に増え、江戸末期には七、八段にもなった。こうして観賞用の高価な雛人形を飾り祭るほうがメインになると、元来の流し雛の風習はすたれていった。このように雛人形はひとがたと、愛玩・観賞の要素を兼ね備えた、呪術性を帯びた人形と言える。お守りとして、女の子は自分専用の雛人形（一対の内裏雛）を持つものとされてきた。婚礼調度にも加えられ、結婚後の初節句も祝っていた。ちなみに衣裳着雛の胴体は、藁の束か桐で出来ている（現代は合成樹脂製のものもあるが）。身体の芯が藁束の人形！ やはり、お雛様はタダモノではなかった。

### 「企画展」おひなさま展

場所：山崎記念 中野区立歴史民俗資料館  
期間：2023年2月14日～3月12日  
9時～17時／月曜・第3日曜休／入館無料  
見所：江戸時代から昭和にかけての約40組の雛人形を展示。旧江古田村の名主・山崎家の雛人形と雛道具は、中野区指定有形文化財。そのうち鯉を運ぶ「鯉桶」は江古田ならではの雛道具。海が遠い江古田では淡水魚の鯉を生簀に飼い、祝い事に贈ったり食べたりしていた。

※ 参考資料は最終頁に掲載



# 鷺宮のいま・むかし

鷺宮地域の昭和20年〜30年代の写真と現在の写真を並べてみました。地域住民のお馴染みとなっている場所の時代変遷が感じられます。

### ① 上鷺東公園

公園完成当時の写真と比べると木々が大きく太く育っていて、年月の経過を感じます。今でも子どもたちに人気の公園です。



むかし



### ② 鷺宮商明会商店街 (鷺ノ宮駅北)

道路は舗装され、並んでいる商店も変わっていますが、当時の面影が残っています。「なぎぷり」というマスコットキャラクターが商店街を盛り上げています。



むかし



鷺宮図書館 マスコットキャラクター みゃ〜こ

※この記事は鷺宮図書館が担当しました

### ③ 白鷺商栄会商店街 (中杉通り)

現在は、舗装され歩道が作られています。バス通りのため交通量が多く、踏切の影響もあり、度々渋滞が発生するポイントにもなっています。



むかし

### ④ 都立鷺宮高校

古い写真の方は、校舎が奥に見えています。現在は校舎が建て替えられ、配置も変わっています。植木も移植され生長しました。



むかし



### ⑤ 都立家政商店街

昔も今も賑わいのある地元の人々に愛されている商店街です。当時の建物も少し残っているようです。マスコットキャラクターは、ちばてつやさんデザイン「かせいちゃん」。



むかし

## 中野区 ちいきの写真館

Nakano Digital Library

「中野区ちいきの写真館」では中野区の古い写真を公開しています。地域、年代などから検索したり、現代の地図上のマークから直接写真を表示したり、簡単に目的の写真を探すことができます。身近な場所の歴史を写真で振り返ってみませんか。

### ■アクセス方法■

中野区立図書館 HP 上の

[中野区ちいきの写真館](#)

をクリック!

スマートフォンは  
こちらから







梅ソフトを食べる  
の巻



### 中央図書館 映画会のお知らせ

『地下鉄(メトロ)に乗って』 2006年公開 122分  
(DVD 上映、日本語字幕付き・音声ガイドなし)



日時：令和5年3月25日(土) 10:00～/14:30～  
※開場は30分前です。

場所：中央図書館地下2階 セミナールーム

定員：各回15名(予約申込制/先着順)

受付：令和5年3月4日(土) 9:00より

中央図書館カウンターまたは電話：03-5340-5070にて

### 江古田図書館 『わくわくえほんたいむ』

希望する子どもに対し、いつでも好きな本の読み聞かせを行います。

日時：令和5年4月23日～令和5年5月12日(休館日除く)

場所：江古田図書館 児童コーナー

対象：小学生以下

問合せ先：江古田図書館 03-3319-9301



### p.2-3 お雛様のルーツ〈参考資料〉

- ・『日本の雛人形 決定版』 是澤博昭 / 著、淡交社、2013年、所蔵：中央
- ・『ひな人形』 斎藤良輔 / 著、法政大学出版局、1975年、所蔵：中央
- ・『雛の誕生』 皆川美恵子 / 著、春風社、2015年、所蔵：中央
- ・『図説 日本の人形史』 山田徳兵衛 / 編、東京堂出版、1991年、所蔵：中央・江古田
- ・『六義園・柳沢家の雛祭』 是澤博昭 / 著、ミネルヴァ書房、2022年、所蔵：中野東
- ・『おひなさまの平安生活えほん』 ほりかわりまこ / 作、あすなる書房、2020年、所蔵：中央・野方・南台・鷺宮・江古田・上高田・中野東
- ・『調べてみよう！日本の職人 伝統のワザ 7』 学研教育出版、2011年、所蔵：中央・中野東
- ・『全訳 源氏物語 改版 新装版』 全5巻、紫式部 / 著、角川書店、2008年、所蔵：上高田
- ・『あさきゆめみし』 全10巻、大和和紀 / 著、講談社、2017年、所蔵：中央・野方・南台・鷺宮・中野東
- ・『呪術・占いのすべて』 瓜生 中ほか / 著、日本文芸社、1997年、所蔵：中央
- ・『<図説> 日本呪術全書 普及版』 豊嶋泰國 / 著、原書房、2021年、所蔵：中野東
- ・『まじないの文化史』 新潟県立歴史博物館 / 監修、河出書房新社、2020年、所蔵：中央
- ・『山崎家のおひなさま』 山崎記念中野区立歴史民俗資料館、所蔵：中央
- ・『おひなさま』 山崎記念中野区立歴史民俗資料館、所蔵：中央
- ・中野区立歴史民俗資料館 HP『企画展示情報』(参照：2023年2月1日)  
<https://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/211500/d029585.html>

### 次号予告

特集

- ・ 中野サンプラザ
- ・ ～ルック・バック!!～
- ・ 中野サンプラザ
- ・ 中野東

vol.59 2023年5月末日 発行予定

※予告の内容は変更になる場合があります

### 編集後記

- ①子供の頃から夢見ていた、十二単を着た「リカちゃんひな人形」が発売されているのを知り、狂喜乱舞です！(K)
- ②人形は生まれた時から身近な存在ですよ。お別れが悲しいので、初めから買わないようにしています。(N)
- ③今回初めて、シビブリアの編集を担当しました。校正などの経験がなかったので新鮮で楽しめました。(O)

※本誌の掲載内容・お知らせ情報は記事作成当時のものです。

ブックカバーとして  
ご利用いただけます

単行本 ↓

文庫本 ↓

中野区立鷺宮図書館  
鷺宮三丁目22番5号  
TEL 03-3337-1044

中野区立中野東図書館  
中央一丁目41番2号  
TEL 03-5937-3559

文庫本 ↓

単行本 ↓

ブックカバーとして  
ご利用いただけます

単行本 →

← 単行本

文庫本 →

← 文庫本

中野区立図書館報  
**シイビブリア**

中野区立中央図書館  
中野二丁目9番7号  
TEL 03-5340-5070

みなみのライブラリー  
弥生町四丁目27番11号  
TEL 03-3381-7261

中野区立野方図書館  
野方三丁目19番5号  
TEL 03-3389-0214

美鳩ライブラリー  
大和町四丁目26番5号  
TEL 03-3330-8160

中野区立南台図書館  
南台三丁目26番18号  
TEL 03-3380-2661

中野第一ライブラリー  
本町三丁目16番1号  
TEL 03-3372-8501

文庫本 →

← 文庫本

単行本 →

← 単行本

ブックカバーとして  
ご利用いただけます

単行本 ↑

文庫本 ↑

中野区立江古田図書館  
江古田二丁目1番11号  
TEL 03-3319-9301

中野区立上高田図書館  
上高田五丁目30番15号  
TEL 03-3319-5411

文庫本 ↑

単行本 ↑

ブックカバーとして  
ご利用いただけます